

産地保証 木材で

「安心」の家

注目の「森林認証制度」

木材の生産地を保証する「森林認証制度」が注目されている。継続的に木材を供給できる安定した森林経営を促すために作られた制度。消費者にとっても、生産地のはっきりした木材を使うことができる利点がある。木のぬくもりが見直される中、認証を受けた木材を使った家が人気を呼んでいる。

集まり、一九九三年に創設された非営利団体で、①森の樹木が継続的に育てられているか②種類の異なる木材が混じり合うことなくきちんと加工流通しているか③の二点を審査し、認証している。

この男性の住宅に使われたのは、山形県の金山町森林組合が生産している杉など。同組合は昨年、FSCの認証を受けた。住宅は二階建てで、床面積約百五十平方メートル。建築費は一坪(約三・三平方メートル)あたり約65万円。

柱や梁など構造材の約九割は、同組合の木材を使用した。

男性は妻や子どもと一緒に今年五月、同町を訪問し、木材を伐採した森を歩いた。「家を作る前に、林業に携わっている人が良い木を作ろうと頑張っている姿を見ることができ、安心しました」と話す。

同組合参事の杉井範之さんは「柱を切り出した後の杉から、天井に張る板を切り出したりする。木の全体を活用するため、価格は意外と高くないはずですよ」と説明する。

住む

森林認証の木材を使って木造住宅を作っている「木の家づくりネットワーク」(東京)代表の山中文彦さんは「認証が広がれば、伐採した後できちんと植林するというサイクルが確立する。日本のいい木を活用しながら、環境保護にもつながる」と話している。

森林認証を受けた木材は、住宅だけでなく、家具などにも使われている。新潟県上越市の建具業者が集まる協同組合「ウッドワーク」は、森林認証を受けた木材を使った「アースフアン

チャー」と名付けた家具を製作している。ヒノキを使った机やイス、ベンチなどだ。

横浜市にある橋学苑中学校と同高校では、森林認証を受けたニュージランド産の木材を使った学習机を今年導入した。脚の部分が金属でできた一般的な学習机とは異なり、すべて木材でできている。手触りが軟らかいと生徒からも好評だ。

この十月、東京都町田市に木造住宅を新築した男性会社員(39)は、接着剤を使った合板ではなく、木そのものを使った家を建てたいと考えていた。妻がアレルギー症状に悩んでいたからだ。住宅関係のセミナーに参加するうちに、森林認証制度を知ったという。

この制度は、適切な森林管理が行われているかどうか、第三者機関が評価する仕組み。いくつかの認証団体があるが、全世界の森林を対象に評価活動を行っているのは、ドイツに本部を置く森林管理協議会(FSC)。

森林認証を受けた木材で作られた家。山形県の金山町で育った木だとわかっているため、安心感があります」と建築主の男性会社員は話す(東京都町田市で)

